

氏名	栗飯原 文子 教授
こんな研究をしています	英語圏・仏語圏アフリカの文学、特に小説を中心に研究しています。アフリカの映画や音楽についても学んでいます。
こんな成果を挙げています	<p>【論文】</p> <p>「アフリカ文学が紡ぐ「いま」 第3回 アフリカをクィア化する／クィア化するアフリカ——クィアアフリカ文学の波」 『思想』 岩波書店, 2019年12月号.</p> <p>「アフリカ文学が紡ぐ「いま」 第2回 メイド・イン・アフリカの可能性——アフリカの出版の未来」 『思想』 岩波書店, 2019年6月号.</p> <p>「アフリカ文学が紡ぐ「いま」 第1回 アフリカ文学とはなにか——五〇年後の始まり」 『思想』 岩波書店, 2018年10月号.</p> <p>【翻訳】</p> <p>アブドゥルラザク・グルナ『楽園』白水社, 2023年.</p> <p>マアザ・メンギステ『影の王』早川書房, 2023年.</p> <p>チゴズィエ・オビオマ『小さきものたちのオーケストラ』早川書房, 2021年.</p> <p>オインカン・ブレイスウェイト『マイ・シスター, シリアルキラー』早川書房, 2021年.</p> <p>チヌア・アチェベ『崩れゆく絆』光文社古典新訳文庫, 2013年.</p>
ほかに、こんなジャンルに関心をもっています	<ul style="list-style-type: none"> ・アフリカのポピュラー・カルチャー ・パンアフリカニズムの歴史・思想 ・アフリカ哲学 ・旧植民地世界の文学 ・アジア・アフリカ・ラテンアメリカ(いわゆる第三世界)の連帯の歴史
こんな授業を行なっています	<p>多言語相関論 IA(春)/IB(秋)</p> <p>さまざまな地域・言語圏の文化/文学を読解、分析するための理論と実践方法を学びます。短篇・中篇小説を中心に、日本語か日本語訳で精読して議論し、文学批評・理論に触れます。</p>
学会や社会でこんな活動をしています	<p>翻訳が好きです。アフリカ(系)の作家による、古典から最新の作品まで、重要なもの、おもしろいものを日本語で紹介できるように頑張りたいと思っています。</p>